

漢字や読書に関する意識 調査結果

漢字テストと合わせて実施した意識調査では、漢字の「読み」「書き」に対する意識のほか、本を「読むこと」、日記を「書くこと」など、子どものふだんの「読み」「書き」の実態と意識についても尋ねている。2007年調査との比較により、それらがどのように変化したかもみることができる。

調査結果では、漢字を「読むこと」や「書くこと」が「得意」の比率は、2007年調査と比べて、全体としては微増で、いくつかの学年では増加していた。その理由には、漢字の書き取りの宿題の頻度が高まったことのほか、本を多く読む子どもの比率や、読めない漢字があったときに「自分で辞書を引く」子どもの比率がやや高まっていることなどがあるのではないと思われる。

一方で、課題としては、「読み」「書き」の経験や意識に、子どもや性別による差がみられることがある。保護者を通してだけでなく、学校や地域などにおいても、「読むこと」「書くこと」が「好き」と感じられる経験や環境を増やすことが大切であろう。

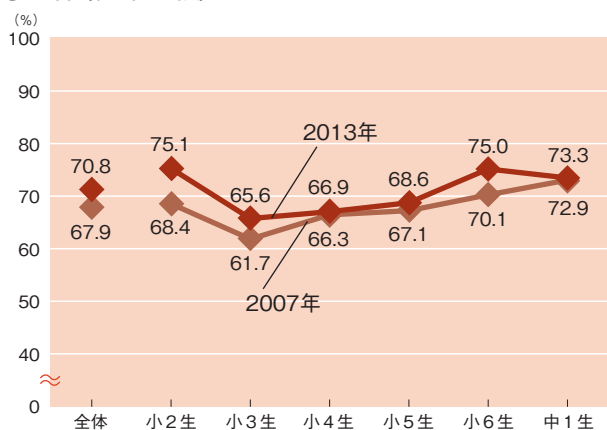
漢字を読むこと・書くこと

漢字を読むことが得意かどうかを尋ねたところ(図1)、「得意」(とても+まあ、以下同様)の比率は約7割であった。学年別にみると、小2生がもっとも高く(75.1%)、小3生でいったん低下するが、その後は学年とともに高まる傾向にある。2007年調査と比べると、小2生で「得意」の比率が増加している(6.7ポイント)。また、今回の結果を性別でみると、小2生、小4生、小6生では、女子のほうが男子より、漢字を読むことが「得意」の比率が高い(6.0~8.7ポイント差)。

Q あなたは、漢字を読むことが得意ですか。

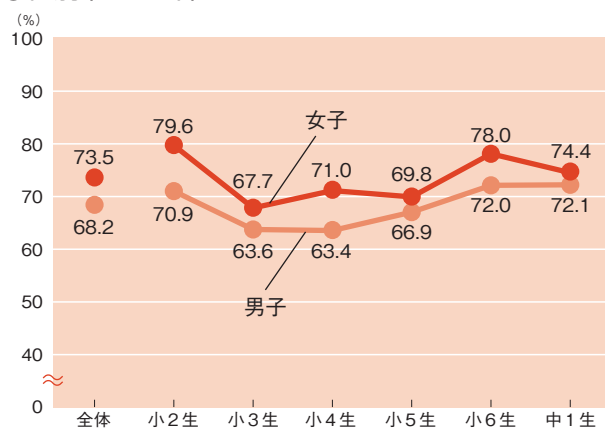
図1 漢字を読むことの得意・不得意

①全体(経年比較)



※「とても得意」+「まあ得意」の%。

②性別(2013年)

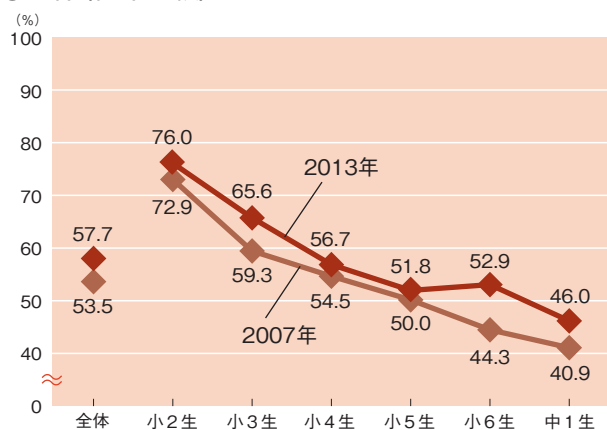


漢字を書くことが得意かどうかを尋ねたところ(図2)、「得意」の比率は6割弱であり、読むことが「得意」の比率に比べて低い。学年別にみると、小2生の比率がもっとも高く(76.0%)、学年とともに低下して、中1生では4割台となる。2007年調査と比べると、小3生、小6生、中1生で「得意」の比率が増加している(5.1~8.6ポイント)。また、今回の結果を性別でみると、小2生~小4生、小6生では、女子のほうが男子より、漢字を書くことが「得意」の比率が高い(6.4~11.0ポイント差)。

Q あなたは、漢字を書くことが得意ですか。

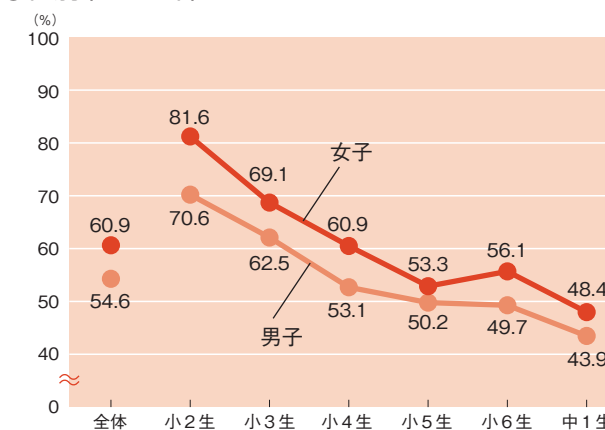
図2 漢字を書くことの得意・不得意

①全体(経年比較)



※「とても得意」+「まあ得意」の%。

②性別(2013年)



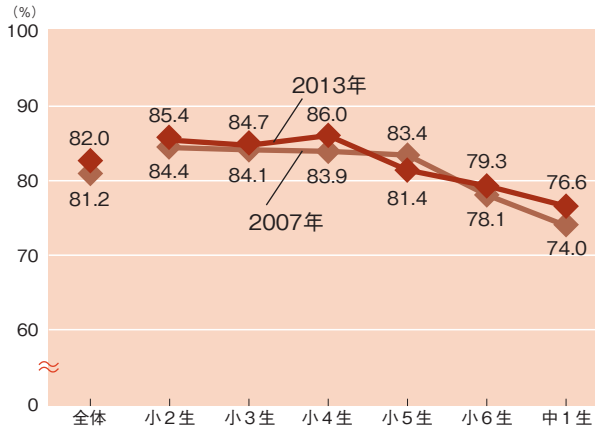
本を読むこと

本を読むのが好きかどうかを尋ねたところ(図3)、「好き」(とても+まあ、以下同様)の比率は約8割であった。学年別にみると、小4生がもっとも高く(86.0%)、学年とともに低下している。また、今回の結果を性別でみると、すべての学年で女子のほうが男子より、本を読むのが「好き」の比率が高い(7.3~11.0ポイント差)。また、保護者の読書習慣や、本の読み聞かせの経験の有無別でみると、保護者が家で本を「読んでいる」と回答した子ども(3.7~8.9ポイント差)や、自分が小さいころに保護者が本を「読んでくれた」経験がある子ども(6.4~13.8ポイント差)のほうが、本を読むのが「好き」の比率が高い。本を読んだり、読んでもらう環境があるかどうかは、本を読むことの好き・嫌いに関係しているようだ。

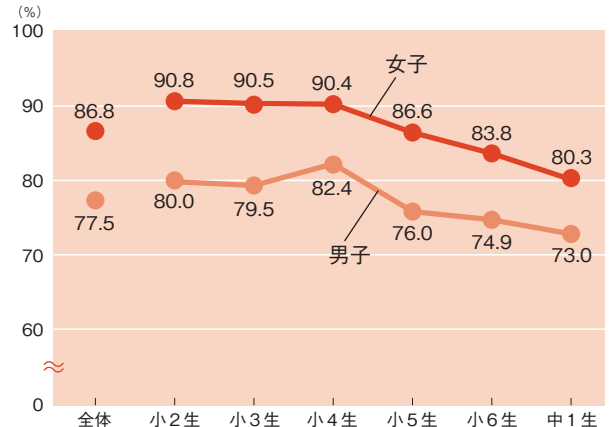
Q あなたは、本を読むのが好きですか。

図3 本を読むことの好き・嫌い

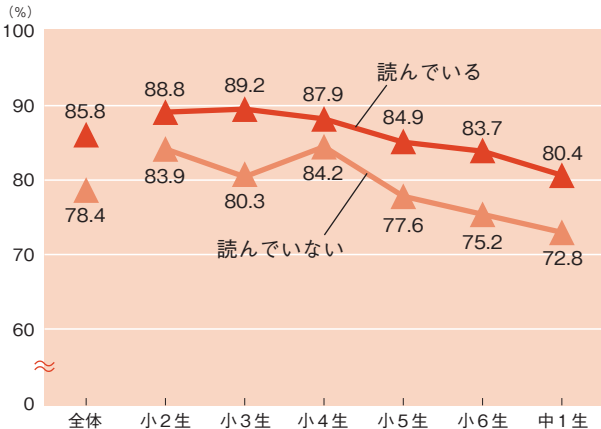
①全体(経年比較)



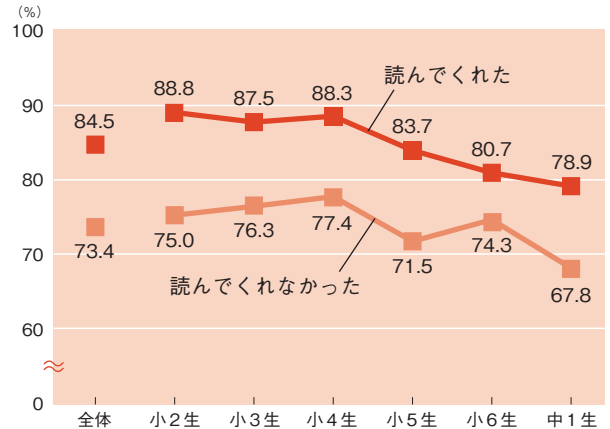
②性別(2013年)



③保護者の読書習慣の有無別(2013年)



④本の読み聞かせの経験の有無別(2013年)



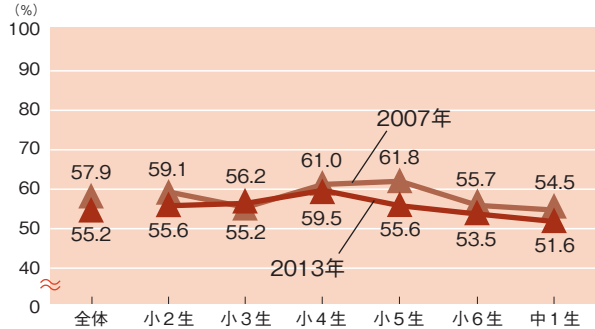
※「とても好き」+「まあ好き」の% (①~④)。

※保護者の読書習慣は下記参照。「読んでいる」は、「よく読んでいる」「ときどき読んでいる」と回答した子ども、「読んでいない」は、「あまり読んでいない」「まったく読んでいない」と回答した子ども(③)。

※本の読み聞かせの経験は下記参照。「読んでくれた」は、「よく読んでくれた」「ときどき読んでくれた」と回答した子ども、「読んでくれなかった」は、「あまり読んでくれなかった」「まったく読んでくれなかった」と回答した子ども(④)。

Q あなたのお父さんやお母さんは、家でよく本を読んでいますか。

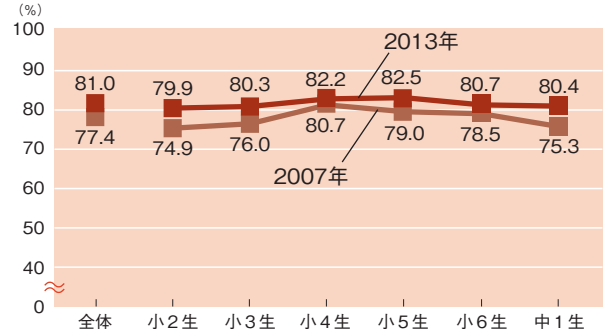
◆保護者の読書習慣(全体)(経年比較)



※「よく読んでいる」+「ときどき読んでいる」の%。

Q あなたのお父さんやお母さんは、あなたが小さいころ、よく本を読んでもらいましたか。

◆本の読み聞かせの経験(全体)(経年比較)



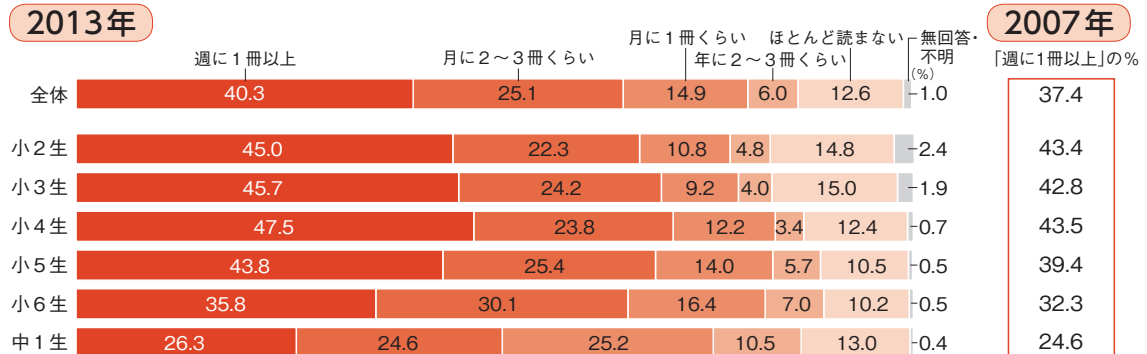
※「よく読んでくれた」+「ときどき読んでくれた」の%。

本を読むことと漢字力の関係

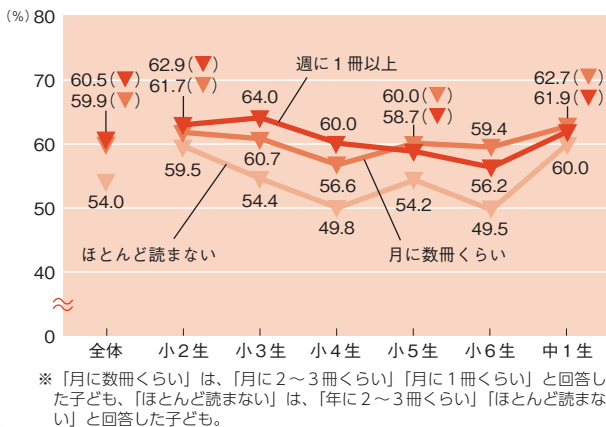
家で本をどのくらい読むかを尋ねたところ(図4)、全体では、「週に1冊以上」の子どもが4割いる一方で、「年に2~3冊くらい」「ほとんど読まない」という子どもも合わせて2割弱いる。学年別にみると、小2生~小4生は、「週に1冊以上」の比率が半数弱であるが(45.0~47.5%)、学年とともに低下し、中1生では4人に1人となる(26.3%)。ただし、2007年調査と比べると、どの学年も「週に1冊以上」の比率はやや高まっている。また、読書の習慣と漢字力の関係を見ると(左下の図)、「週に1冊以上」「月に数冊くらい」の子どもに比べて、「ほとんど読まない」子どもは、漢字の正答率が低い傾向がみられる。

Q あなたは、家で本(マンガや雑誌以外)をどのくらい読みますか。

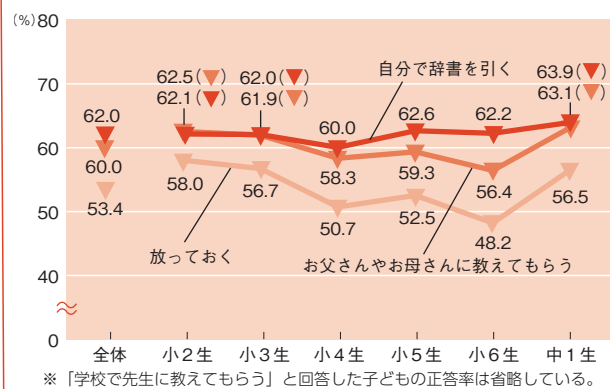
図4 読書の習慣(経年比較)



◆漢字の正答率(読書の習慣別)(2013年)



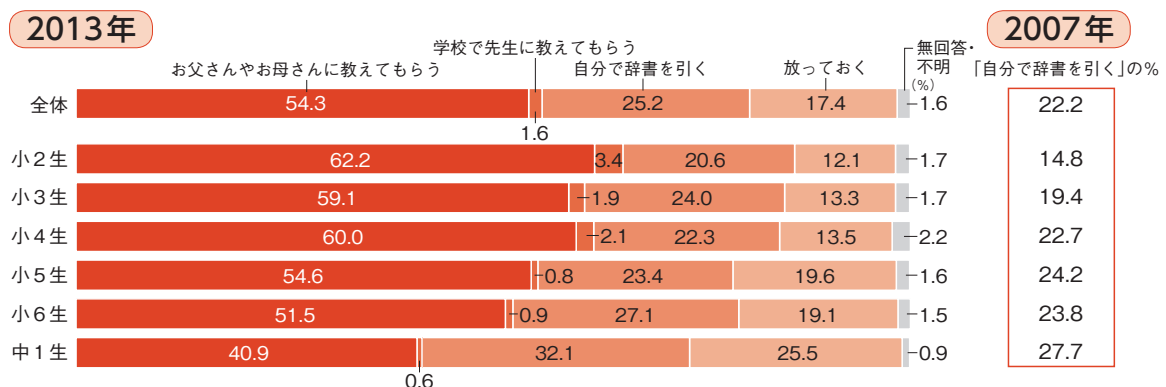
◆漢字の正答率(読めない字の対処方法別)(2013年)



読めない漢字があったときの対処方法を尋ねたところ(図5)、全体では、「お父さんやお母さんに教えてもらう」と回答した子どもが半数を超えてもっとも多く(54.3%)、次いで、「自分で辞書を引く」が4人に1人である(25.2%)。学年別にみると、「自分で辞書を引く」の比率は学年とともに上がり、小2生が約2割に対して、中1生は3割強である。この比率は、2007年調査と比べてやや高まっている。ただし、中1生では「放っておく」の比率も25.5%と高い。また、読めない漢字があったときの対処方法と漢字力の関係を見ると(右上の図)、「自分で辞書を引く」子どもや「お父さんやお母さんに教えてもらう」子どもに比べて、「放っておく」子どもは、漢字の正答率が低い傾向がみられた。

Q あなたは、本を読んでいる途中で、読めない漢字があったときどうしていますか。

図5 読めない字の対処方法(経年比較)

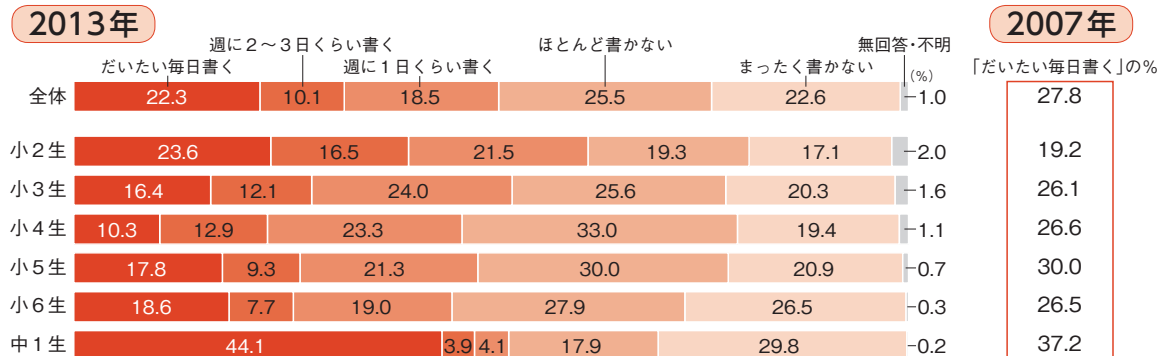


書くこと

日記を書くかどうかを尋ねたところ(図6)、全体では、「だいたい毎日書く」が約2割で、「週に2~3日くらい書く」「週に1日くらい書く」を合わせると、約半数の子どもが、週に1日以上、日記を書いている。ただし、2007年と比べると、「だいたい毎日書く」の比率は、全体で5ポイント以上低下している。学年別にみると、小4生は「だいたい毎日書く」の比率が約1割と低いのに対して、中1生は4割を超えている。

Q あなたは、日記を書いていますか。

図6 日記を書く習慣(経年比較)

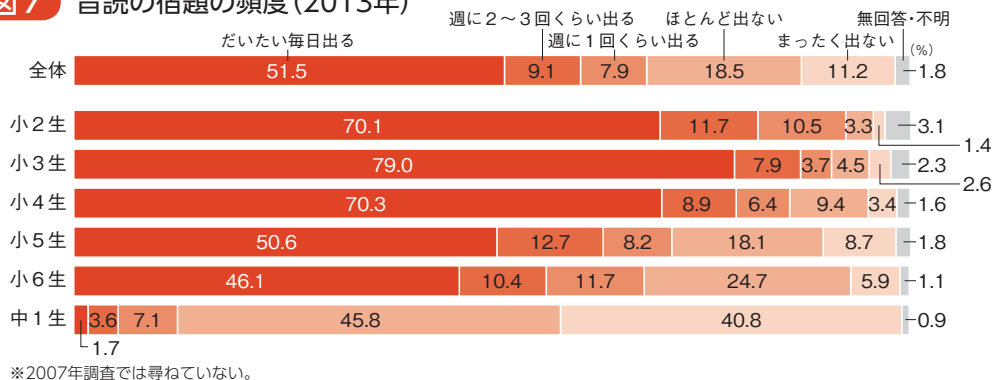


学校の宿題

音読の宿題の頻度を尋ねたところ(図7)、「だいたい毎日出る」の比率は、小3生が約8割と最も高く、次いで、小2生、小4生が約7割である。小5生、小6生では頻度が下がり、「ほとんど出ない」「まったく出ない」の比率を合わせて約3割となる。中1生ではほとんど出ていない。一方、漢字の書き取りの宿題の頻度は(図8)、「だいたい毎日出る」の比率が、全体で4割強である。学年別にみると、小2生が約6割と最も高く、中1生でも「だいたい毎日出る」が2割を超えている。2007年調査に比べると、小2生、小3生、小6生で、「だいたい毎日出る」の比率が大幅に高まっている(5.8~13.9ポイント増)。

Q 学校では、音読の宿題がどのくらい出ますか。

図7 音読の宿題の頻度(2013年)



Q 学校では、漢字の書き取りの宿題がどのくらい出ますか。

図8 漢字の書き取りの宿題の頻度(経年比較)

